

## はじめに

近年、土砂災害は激甚化するとともに急激な増加傾向にあります。他災害に比較して局所的に発生する土砂災害は、地震によるもの以外は、適切な避難行動によりある程度犠牲数を減少させることが可能であると考えられます。そのため、人命を守るには防災意識を高めていくことが急務です。とりわけ子供が防災意識を持つことで子供を媒介者として知識が広まり地域全体の意識の向上につながると考えられます。このため学校教育は国民の普遍的な機会であることから防災教育の場として注目されています。

学校で実施する防災教育の中でも、外部講師などの参加する「防災学習会」は工夫次第でより効果的かつ持続的なものにできないかと考えられます。一方で、これまで防災教育の効果評価に関しては、防災教育の実施前後に参加者の変化を計測して比較し、その変化量を教育効果として捉えることがほとんどです<sup>1)</sup>。しかし、評価対象はその参加者に限られており、防災教育が保護者はじめ地域全体の防災力に対して及ぼす影響については十分に把握されていません。そこで、「児童に対して行った防災教育が保護者の防災意識、ひいては地域に与える影響を把握すること」を目的として調査を行いました。

「防災学習会」は、2024年6月21日に九重町立野上小学校からの依頼により当センターの自主研究として実施しました(野上小学校のホームページ<sup>2)</sup>に掲載)。そこで実施した調査結果について報告します。野上小学校は令和6年度に大分県から「防災教育モデル実践事業推進校」の指定を受け、地域と連携した防災教育に取り組んでいます。

## 調査方法

2024年6月21日(金)大分県九重町立野上小学校からの依頼により、同校5・6年生計39名の児童に、「身近な場所で起こる土砂災害を学ぼう!」と題して、3名の講師を派遣し、防災学習会を行いました。本地区は令和2年(2021年)7月に豪雨災害に見舞われ、被害のあった世帯も多くあります。当日の午後に2時間(小学校の1時間は45分)の時間をいただき、表-1の内容で防災学習会を実施しました。

表-1 野上小学校での防災学習会の実施内容

当日実施した「防災学習会」について、児童と保護者にアンケート調査を実施しました。また、3ヶ月後にも同様に実施しました。ただし、1回目の保護者アンケートは授業参観に来られていた方のみで、2回目は児童を通じて、保護者にアンケートをお願いしました。2回目の保護者アンケートではほぼ全員の保護者からアンケートを頂くことができました。同時に教員聞き取り調査も実施しました。このように、今回の調査では、保護者の方へもアンケートを実施することで、「児童に対して行った防災教育が保護者の防災意識、ひいては地域に与える影響を把握すること」を目的として調査を行いました。

### 「身近な場所で起こる土砂災害を学ぼう!」

#### 1 時間目

1. イントロダクション
  2. 土砂災害の種類を知ろう
  3. 九重町はどんな所にあるの?
  4. 身近な場所で土砂災害があるかも・・・
- 【模型実験の実演】
5. 土砂災害に襲われないために
  6. まとめ

#### 2 時間目

ハザードマップで身近な災害の危険を調べてみよう(DIG)



防災学習会の様子



模型実験の実演

## 調査結果

防災学習会に参加した小学校を対象としたアンケート調査及び聞き取りにより、特徴的な事項として以下のことがわかりました。

6月21日(金)に行った防災学習会以降から今まで、家族や友人などに防災についての話をしましたか?(n=36)については、36名中、28名の児童が話したと答え、それを誰に話したか?の質問には27名の児童が家族と話したと答えています(図-2)。一方、2回目の保護者アンケートでは、6月21日の防災学習会についてお子様から話を聞

いたことはありましたか?については、33名中、26名の保護者があったと答えています(図-3)。これは図-2の結果と整合している結果となりました。さらに、学校であったお子様との防災の話がきっかけで、お子様や家族で防災に関する話の頻度は増えたと思いますか?の質問には、33名中14名の保護者が増えたと答えています(図-4)。このように、保護者の方へもアンケートを実施することで、「児童に対して行った防災教育が保護者の防災意識」にも影響を与えることが確認できましました。なお保護者の方数名は地区の防災関係の役員にも話を伝えており、地域にも影響を与えていることがわかりました。このことから、保護者への伝達意図を高くするような教育内容を工夫することが重要であると思います。なお、「防災学習会」の2時間目では、児童の皆さんに野上町のハザードマップを使って考えられる困難を書き出してもらいました。その成果は野上小の階段横に掲示、さらに野上小のホームページにも掲載されています(図-1)。



図-1 野上小学校の校舎に掲示された成果

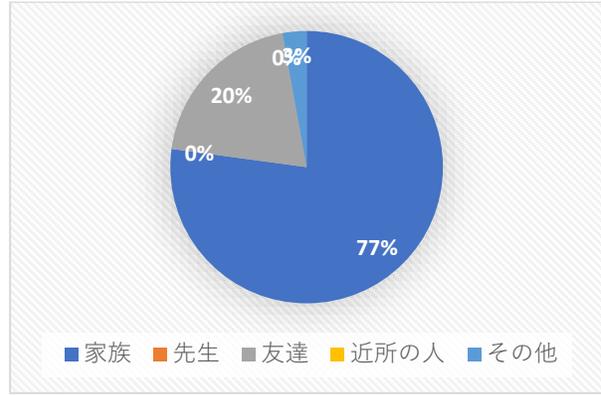


図-2 防災学習会以降、防災の話を誰に話したか? (多肢選択)

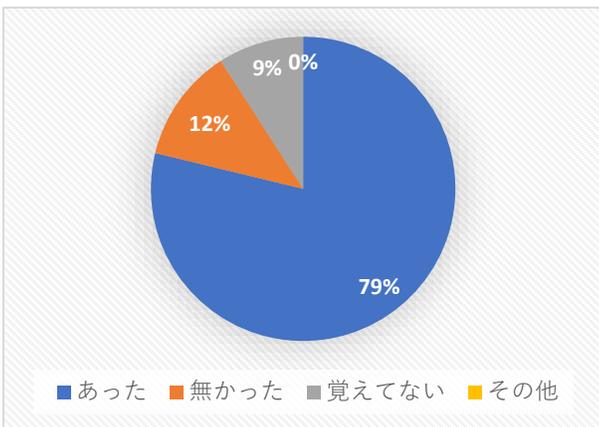


図-3 お子様から防災学習会の話がありましたか?

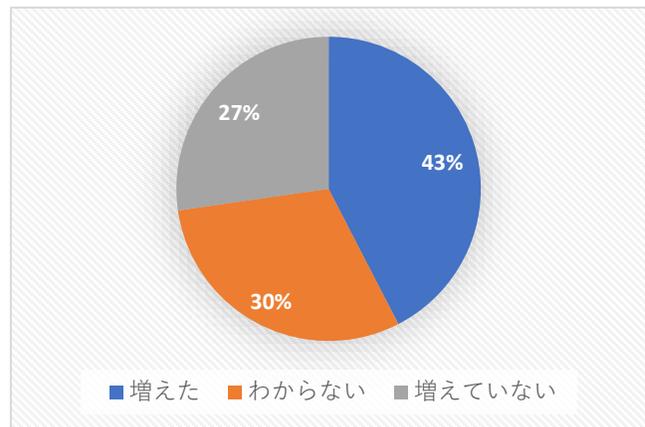


図-4 学校であったお子様との防災の話がきっかけで、お子様や家族で防災に関する話の頻度は増えましたか?

なお、上述した以外の結果としては、小学生向け防災学習会の効果として、児童間に特に差がみられたのは、「調べる機会の変化及び調べた回数」でした。普段から災害についてよく話す児童ほど、災害について高い関心を持ち、自発的に情報を集めるという傾向がみられました。一方、会話頻度が「変化なし」である児童の場合、自発的に行動はしない児童の割合が高かったです。児童らが日ごろから高い防災意識を持つためには、外部からの継続的な働きかけが不可欠です。したがって、行政主体の防災学習会に積極的に参加することに加え、そこでの学習内容を学校や家庭において繰り返し想起させ、児童らが防災・災害に関する記憶と関心を長期間保てるような工夫をすることは重要であると言えます。また、防災学習会や普通の授業の中で、児童らが学んだことを保護者に伝えたいと思わせるような学習内容、指導方法を精選すべきです。また、家族に対しての防災教育も並行して行うことが望ましい。

謝辞

今回紹介した「防災学習会」の取り組みは、大分県九重町立野上小学校の遠藤恭代教諭、佐藤貴子校長らの招聘と全面的な協力によるものです。野上小学校の教員の皆様、児童、そして保護者の皆様には大変御世話になりました。

参考文献

- 1) 檜垣大助ら (2016) : 土砂災害と防災教育, 朝倉書店, 160pp.
- 2) 九重町野上小学校だより (2024) : 土砂災害防止学習実施, 2025.4.1 参照 <https://syouno.oita-ed.jp/kokonoe/nogami/keiei/20915/>